

## 当院における健診受診者の内臓脂肪面積測定結果の検討

◎柴田 綾<sup>1)</sup>、岡田 瞳<sup>1)</sup>、小田部 円<sup>1)</sup>、岡本 猛<sup>1)</sup>  
地方独立行政法人 長野県立病院機構 長野県立信州医療センター<sup>1)</sup>

【はじめに】メタボリックシンドローム (MS)は内臓脂肪の蓄積を基盤として動脈硬化性疾患を発症させる状態である。日本におけるMS診断基準は男性腹囲85cm以上、女性腹囲90cm以上を必須項目としている。これは内臓脂肪面積が100cm<sup>2</sup>以上に相当すると考えられているためである。当院で2013年より人間ドック受診者に測定した内臓脂肪面積の検討を行なった。【対象と方法】対象は2013年より2021年10月までに健診で内臓脂肪面積測定を行ったのべ700人(男性449人女性251人)。内臓脂肪面積はオムロンヘルスケア社HDS-2000 (DUALSCAN)を用いインピーダンス法にて測定した。同日測定したBMI・体脂肪率・腹囲・総コレステロール・HDLコレステロール・LDLコレステロール・中性脂肪・空腹時血糖・ヘモグロビンA1c・OGTT60分血糖値・120分血糖値について検討した。【結果】腹囲が男性85cm女性90cm以上は男性が244件、女性が47件であった。内臓脂肪面積が100cm<sup>2</sup>以上となったのは男性99件、女性6件であった。男性：腹囲85cm未満・内臓脂肪面積100cm<sup>2</sup>未満群(A群)200件、腹

囲85cm未満・内臓脂肪面積100cm<sup>2</sup>以上群(B群)5件、腹囲85cm以上・内臓脂肪面積100cm<sup>2</sup>以上群(C群)94件、腹囲85cm以上・内臓脂肪面積100cm<sup>2</sup>未満群(D群)150件  
女性：腹囲90cm未満・内臓脂肪面積100cm<sup>2</sup>未満群206件、腹囲90cm未満・内臓脂肪面積100cm<sup>2</sup>以上群0件、腹囲90cm以上・内臓脂肪面積100cm<sup>2</sup>以上群4件、腹囲90cm以上・内臓脂肪面積100cm<sup>2</sup>未満群2件であった。男性のC群とD群で総コレステロール(p<0.05)中性脂肪(p<0.01)空腹時血糖(p<0.01)の有意差を認めた。【まとめ】男性においてMS基準を超える例が著明に多かった。男性において腹囲が85cm以上でも内臓脂肪面積100cm<sup>2</sup>未満の群は多く見られ男性全検査数の33%に相当した。腹囲85cm以上で内臓脂肪面積100cm<sup>2</sup>以上群と100cm<sup>2</sup>未満群間では総コレステロール・中性脂肪・血糖値に有意な差が見られた。【結語】男性腹囲85cm以上でも内臓脂肪面積が100cm<sup>2</sup>を超えない被検者が一定数いる。今後も測定結果の解析を続けていきたい。  
長野県立信州医療センター臨床検査科 0260245-1650)